

# 高等教育推進センターニューズレター

## CeRPHE Newsletter

発行：関西学院大学教務機構高等教育推進センター  
Center for Research into and Promotion of Higher Education

2017年3月31日 (12号)

Best Contribution賞決定	1
LUNA活用事例紹介	2
講演会・ワークショップの開催報告	6
FD活動報告について(研究科)	8
FD活動報告について(学部・センター等)	11

### ＝ 第12号発行にあたって ＝

先ごろ全国大学生生活協同組合連合会が実施した「第52回学生生活実態調査」によると、調査対象となった全国の学生の平均勉強時間は1日52.8分(文系では37.0分)、平均読書時間は1日24.4分(0分の回答者が全体の49.1%)とのこと。「単位」が授業時間外の学修時間を含めて構成されていることを鑑みると、この実態は大きな問題を孕んでいると言えるでしょう。このことは本学においても例外ではありません。「単位の実質化」や「教育の質保証」といったキーワードの重みを再認識させる調査結果です。

また、同調査ではスマートフォンの平均活用時間が161.5分まで伸びていることも明らかになっています。今号で紹介しているFD講演会では、現在の学生が「デジタルネイティブ世代」とあるという指摘がありました。机に向かっての「勉強」や紙媒体の「読書」に学生たちをひきつけていくことを考えるのか、それとも教授者側が学生たちのモードに近づいて新たな学修方法を提案していくのか。前段の問題に対する解決策には様々なアプローチがありそうです。

高等教育推進センター副長(高等教育推進センターニューズレター編集長) 中野 康人

## 2016年度「高等教育推進センター Best Contribution 賞」 国際学部 木本 圭一教授へ授与

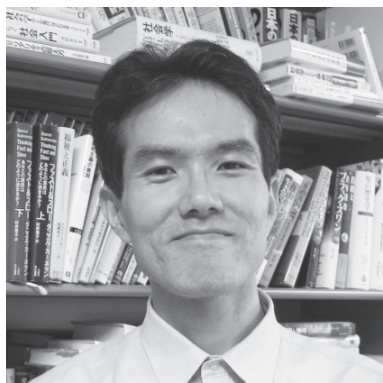
高等教育推進センターが、本学の教育力向上への貢献を行なった個人・団体を顕彰する Best Contribution の表彰が1月18日に行われ、今年度は国際学部の木本教授にクリスタルトロフィーを贈呈しました。木本教授はご担当の会計学基礎で反転授業を行うにあたって、センターが提供をしているクリッカーを使用されていますが、学生の予習の修得度をはかる確認テストのために毎授業で活用されています。また、2016年5月に開催したFDワークショップ「TurningPointを利用したアクティブ・ラーニングのススメ」(ニューズレター11号参照)では、クリッカーの活用事例についてご紹介いただくなど、本学でのクリッカーの利用促進に貢献いただいています。



現在、当センターのHPのリニューアルにあたり教育支援ツールの紹介ページを作成していますが、クリッカーの紹介ページでは木本教授の授業を参考に、使い方の動画を撮影させていただきました。なお動画の公開は4月以降を予定しています。

トロフィーを受け取った木本教授は「センターでは、クリッカーをはじめLUNAやWebレスポンスなど様々なツールが提供されているが、今後もセンターから、学内での利用の促進・紹介を積極的に続けていただきたい」とお話しくださいました。

★高等教育推進センターでは2種類のクリッカーシステムの提供や、ICカードリーダーなどの貸し出しを行っています。詳細はHPをご覧ください。センターまでお問い合わせください。



### 社会学部 立石先生のご活用事例

- ・ LUNA を使っている科目  
⇒ リスクの社会学  
【クラス規模】 300名～ 【授業形態】 講義系
- ・ LUNA で利用している機能  
⇒ グループ機能、掲示板、Web レスポンス  
お知らせ、教材の配布

大教室での授業でも、受講生が自ら考え、考えた内容を発表・公表する「学び合い」の場を提供するために LUNA のグループ機能や掲示板機能を活用

- ◆ 授業中のグループ・ディスカッションのグループ編成のために履修者 300 人以上を 3 ～ 4 人のグループ分けにグループ機能のランダム登録を利用します。

班分けは毎回ランダムとし、LUNA のお知らせ機能を利用して、着席場所を事前掲示します。

#### ランダム登録とは

教員が指定したグループ数に応じて、LUNA が自動的に履修者を割り振ります。

- ◆ 授業での「問い」に対する意見・感想を 40 ～ 50 人程度のグループ掲示板へ書き込んでもらいます。

互いの書き込みを読み、学び合いの機会にする。

履修者全員が 1 つの科目掲示板に書き込むと、投稿数が大量になり読み辛いので、40 ～ 50 名程度のグループ掲示板を利用します。

➤ 最初は自分の考えをうまく表現できなかった学生が、他の学生から多様な見方や意見を知ることによって自分の考えをよりうまく表現できるようになる。

- ◆ 書き込みは、掲示板の採点機能を利用して成績評価します。

#### 掲示板とは

授業に関する考えやアイデアを共有するためのツールです。フォーラムは、トピックまたは関連トピックについてディスカッションを行う場となります。

#### 掲示板の構成

掲示板には、科目に登録されているすべてのユーザが利用できる掲示板と、グループのメンバーのみが利用できる掲示板が存在します。両者の違いは、利用できるユーザの範囲のみであり、掲示板上の機能に差はありません。

## 【LUNA を活用して良かった点】

- ランダム登録を利用して、簡単にグループ分けができる。
- 掲示板機能を利用することで、学び合いの成果として「アクター連関図」の作図等について学習効果を実感している。
- 掲示板の採点画面は、学生ごとにすべての書き込みが収集・表示されるので、学習成果を評価しやすい。

## <掲示板 採点画面 (サンプル)>

掲示板フォーラムの採点: ルナテスト 学生2 ルナテスト ガクセイ2(LUNAtest Student2)

[掲示板フォーラムの採点]ページには、ユーザのフォーラムへの投稿のコレクションが表示され、参加内容の評価がしやすくなっています。詳しいヘルプ

印刷プレビュー フィルタ

ソート条件: 最終投稿日 順序: ▼降順

選択: すべて なし

マーク

スレッド: 国際平和への貢献 投稿日: 2015/10/19 11:07  
 投稿: RE: 国際平和への貢献 ステータス: 公開済み  
 投稿者: ルナテスト 学生2 ルナテスト ガクセイ2 (LUNAtest Student2)

返信 引用 未読としてマーク

スレッド: 地球規模の環境問題について 投稿日: 2015/10/19 10:53  
 投稿: 地球規模の環境問題について ステータス: 公開済み  
 投稿者: ルナテスト 学生2 ルナテスト ガクセイ2 (LUNAtest Student2)

返信 引用 未読としてマーク

添付ファイル: 地球規模の環境問題(人口推移予測から).doc (31.5 KB)

返信 引用 未読としてマーク

フォーラムの統計

ルナテスト ガクセイ2(LUNAtest Student2) ルナテ

成績: 15/10/19 10:53 /10

教員からのフィードバック-学生に表示

返信

本人の書き込みも本人だけでなく、他の学生に返信した書き込みもすべて収集して表示されるので、評価しやすくなっています。

添付されたファイルをダウンロードできます。

## 【課題】

- 掲示板の書き込みにおける文字カウント機能が正しく動作していない。
- 課題レポートの一括ダウンロードと同様に掲示板の書き込みを一括でダウンロードする機能を追加してほしい。

## ご要望・他に利用してみたい機能は？

- スマートフォンからのアクセスを公式サポートしてほしい。
- 添付可能なファイルの種類を選択できる機能を追加してほしい。  
(画像のみ、PDF ファイルのみなどのオプションの追加)

ここでご紹介させて頂いた機能はLUNAサポートにマニュアルがございますので、ぜひご利用ください

LUNAサポート→LUNAの操作方法【教員用】(左側のメニュー)

- ☆グループワーク▶グループ管理、グループセットの作成
- ☆掲示板▶フォーラムの作成、スレッドの作成、スレッドの内容の確認と返信、採点



### 国際連携機構事務部 ご活用事例

- ・LUNA を使っているコミュニティ  
海外留学プログラムや国際交流プログラムのコミュニティ  
⇒2016年度夏季短期海外インターンシップ  
⇒平成28年度後期 第5期トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム  
⇒GS Network (CIEC 学生交流団体) など多数
- ・使っている機能  
⇒お知らせ、テスト、課題レポート、成績管理

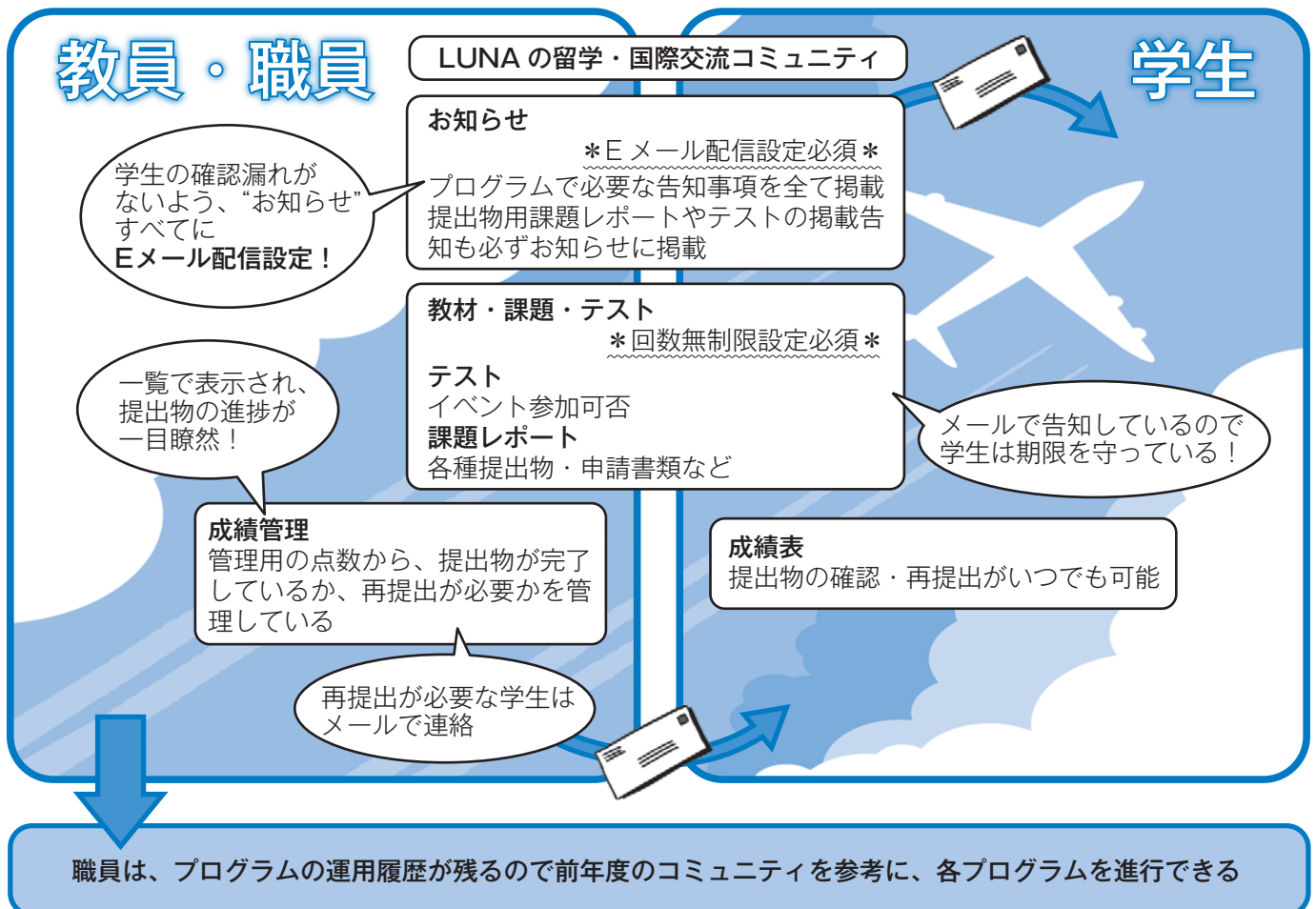
### 連絡事項の告知と提出物管理でコミュニティを活用しています

CIEC では、様々な留学プログラムや国際交流プログラムの参加者から多くのメールが届きます。

内容も、各種問い合わせから留学プログラムの提出物まで様々です。プログラムに応じてグループアドレスを利用しているが送信者は個人アドレスとなるため、返信先にグループメールアドレスを指定して送信していても、学生からは担当教職員の個人宛てメールアドレスに返信が来ることが多く、プログラム担当者間での情報共有ができなかったり、受信ボックスに提出物や手続き書類などが大量のメールと混在してしまうので、LUNA のコミュニティで連絡事項や提出物の管理をしています。

#### ◆LUNA のコミュニティでよく使う機能

- Eメールがメンバー全員に一齐配信できる「お知らせ」機能
- 提出物を「テスト」、「課題レポート」機能で提出させ、「成績管理」機能で管理



氏名(漢字氏名)	氏名(名)	合計	①留学計画書(E)	②自由記述申請	③PDFで全データ
<input type="checkbox"/>	氏名(漢字氏名)	30	10.00	10.00	10.00
<input type="checkbox"/>	氏名(漢字氏名)	30	10.00	10.00	10.00
<input type="checkbox"/>	氏名(漢字氏名)	30	10.00	10.00	10.00
<input type="checkbox"/>	氏名(漢字氏名)	30	10.00	10.00	10.00
<input type="checkbox"/>	氏名(漢字氏名)	30	10.00	10.00	10.00
<input type="checkbox"/>	氏名(漢字氏名)	30	10.00	10.00	10.00
<input type="checkbox"/>	氏名(漢字氏名)	20	10.00	10.00	10.00
<input type="checkbox"/>	氏名(漢字氏名)	20	10.00	5.00	5.00

進捗状況が一目でわかるように管理用の点数を入力している

10点：不備がなく完了している提出物  
5点：不備があり再提出が必要な提出物

Tip!

\*こんな表示もできます\*

成績管理全体

家の列の作成 ▼ 管理 ▼ レポート ▼

採点期間

成績評価

メール ▼

成績のカラーコード

教職員画面

留学計画書

完了 (10.00)

要再提出 (5.00)

成績表

学生画面

すべて 採点済み 未提出 提出済み

表示順序: 最終のアクティビティ

項目	最終のアクティビティ	状態
①留学計画書 課題レポート	2016/07/01 13:15 採点済み	完了
②自由記述申請書 課題レポート	2016/07/01 13:11 採点済み	要再提出

成績評価を利用すると、数字だけでなく文字でも表示することができます

## 【LUNA を活用して良かった点】

- 書類管理や連絡事項がプログラム単位で管理できる。
- “お知らせ”にメール配信を設定しているのので、学生に漏れなく連絡事項を告知できる。
- メールが届くので学生は期限を守って提出してくれる。
- コミュニティに参加している教員や職員が、履歴や進捗状況を一覧で確認できるので、情報が共有できる。
  - ▶お知らせで掲載した連絡事項
  - ▶提出物や書類の進捗状況
- コミュニティを年度管理しているのので、前年度のデータを振り返りながら今年度のプログラム進行に利用できる。

## 【課題】

- 参加者の確定後以降にしかコミュニティが作成できない。
- 参加する学生が確定していない段階で提出させるもの(出願時の提出物など)は、CIECのホームページにフォームを掲載し参加者確定後にLUNAのコミュニティで提出させている。
- コミュニティ申請時はシステム利用IDで申請するが、学籍番号で申請させてほしい。

## ご希望・他に利用してみたい機能は？

- アンケート機能
- Wiki機能での面接の予約

現在は、外部のサイトで面接の予約受付をしているが、コミュニティの内部で管理ができるのなら利用したい。

ここでご紹介させて頂いた機能はLUNAサポートにマニュアルがございますので、ぜひご活用ください

(LUNAサポート→左側のメニューの「LUNAの操作方法【教員用】」)

- ☆お知らせ▶連絡事項の掲載(お知らせ)
- ☆成績管理▶成績管理機能、成績評価(成績を数字以外で評価する)
- ☆Wiki▶Wiki・ブログ・日誌機能、Wikiの開設、Wikiの利用

## 第6回 SD 講演会

## 「大学職員の専門性とは ～『何を・どこまで』担うことか～」

開催日時：2016年10月28日（金）17：20～18：30

開催会場：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス 関西学院会館 風の間

講師：樋口 浩朗氏（山形大学米沢キャンパス事務部研究支援課副課長）

開会挨拶：平林 孝裕氏（関西学院大学高等教育推進センター長）

司会：永井 良二氏（関西学院大学教務機構事務部課長（高等教育推進センター担当））

SDの義務化まで半年を切った昨年10月、大学職員の専門性について改めて考え、今後の課題に備える一助となるよう、山形大学から樋口氏をお招きして第6回SD講演会を開催しました。当日は、他大学からも、人事担当職員のみならず様々な業務に携わる教職員の方にご参加いただけました。

まず、入職時から現在までの20余年のキャリアについて、山形大学のアクションプランや基本理念の作成、大学職員勉強会、奨励研究（科研費）の申請等、転職となった経験を中心にお話くださいました。そして、今回のテーマである大学職員の専門性を踏まえて山形大学で樋口氏が実現したい具体的な構想について語ってくださいました。最後に参加者へのメッセージとして、「機会」「メンター」「組織」「仲間」「アウトプット」というキーワードとともに、樋口氏の高等教育改革への熱き想いを伝えていただきました。

参加者からのアンケートでは、「大学職員としての在り方について共感する点が多く勇気付けられました。」「『キャリアデザインを考える上で、ベースをかため、柔軟に対応できるよう色々な知識を更新していく』という点に強く共感しました。」等の感想が寄せられました。

なお、講演会の詳細につきましては、2017年3月発行の「関西学院大学 高等教育研究第7号」をご覧ください。



## 第7回 FD 講演会

## 「デジタルネイティブ世代への教育方法を考える

## —様々なツールを活用したアクティブラーニング—

開催日時：2016年11月11日（金）17：10～18：40

開催会場：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス 関西学院会館 翼の間

講師：村上 正行氏（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター教授）

開会挨拶：平林 孝裕氏（関西学院大学高等教育推進センター長）

司会：中野 康人氏（関西学院大学高等教育推進センター副長）

2015年度から「大学の情報教育」をテーマとし、今年度は京都外国語大学より村上先生をお招きして第7回FD講演会を開催しました。

はじめに1990年代生まれ以降のデジタルネイティブ世代が育ってきた時代背景と、ソーシャルメディアの発展をみながら、現代の学生の特徴に関する説明やそれに伴う授業デザインへの適用についてお話いただきました。また、大学が求められている姿を実現するための手段としてアクティブラーニングの必要性を解説されたのち、村上先生が実践されているTwitterを活用したアクティブラーニング型の授業についてご紹介いただきました。参加者からは「大変興味深かった」「すぐに活用できるアクティブラーニング法や資料を教えてください、参考になった」といった感想も寄せられました。講演会の中盤にはワークを行い、参加者同士で情報共有をする時間もありアクティブな講演会となりました。

なお、講演会の詳細につきましては、2017年3月発行の「関西学院大学 高等教育研究第7号」をご覧ください。



関西学院大学主催：国際シンポジウム  
「激動の時代における高等教育のグランドデザイン～教育の質的転換と大学の質保証～」

開催日時：2016年12月1日(木)13:00～17:00  
開催会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス1004教室  
プログラム：

- ◎講演 1「Improving the Value of Teaching and Learning」  
Victor M.H. Borden 氏  
(Professor of Higher Education, Indiana University Bloomington)
- ◎講演 2「大学教育改革の動向」  
石川 仙太郎氏(文部科学省 高等教育局 大学振興課課長補佐)
- ◎講演 3「激動の時代における高等教育のグランドデザイン～教育の質的転換と大学の質保証～」  
江原 昭博氏(関西学院大学 教育学部准教授)
- ◎パネルディスカッション・質疑応答  
パネリスト：Victor M.H. Borden 氏、石川 仙太郎氏、江原 昭博氏  
コーディネーター：平林 孝裕氏(関西学院大学高等教育推進センター長)



開会挨拶：平林 孝裕氏  
司 会：永井 良二氏(関西学院大学教務機構事務部課長(高等教育推進センター担当))

Victor M.H. Borden 氏は、インディアナ大学で高等教育をご専門にされており、同大学で Academic Affairs の senior advisor を務められ、大学における教育の質保証での豊かな実務経験をお持ちです。教育の質保証を実現する上での重要な視点・発想やそのための運営の在り方についてご講演いただきました。

続く講演では、文部科学省高等教育局大学振興課の石川仙太郎氏に、日本の高等教育の置かれた現状と現在進められている高等教育政策についてご紹介いただきました。

そして本学教育学部の江原昭博准教授は、高等教育政策の主要な 이슈を取り上げ、現場で起きていることや環境変化のキーコンセプトを明示しました。

パネルディスカッションでは、参加者からの質疑応答を行い、大学教育の質的転換について共有し、各パネリストからお考えを伺いました。その後、日米の学位プログラムの検証体制や大学ポートレートについての議論を交わしました。

アンケートには「アメリカの質保証の現状について興味深い話を聞くことができました」「流動化する社会に対応していくことを質保証の観点から追及していくことは当然のことと改めて感じました」等の感想があり、今日の大学が直面している重大な課題に取り組む上で大変有益な機会となりました。

SD ワークショップ 学生の主体的な学びを支えるアカデミック・アドバイジング  
～アドバイザーに求められる専門性や教学支援を職員の視点から考える

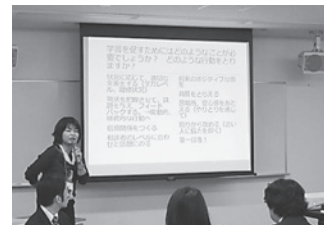
開催日時：2016年11月19日(土)9:30～12:30

講 師：清水栄子氏<愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室講師>

当センター設立以来はじめて、学外者も対象としたSDワークショップを開催しました。

記念すべき第1回目の講師として、愛媛大学教育企画室の清水栄子氏をお招きし、「アカデミック・アドバイジング」をテーマに、講演会とワークショップを行いました。アカデミック・アドバイジングとは広くは教学支援を指し、学生の履修に関わる様々な支援を行います。

前半の講義では、米国におけるアカデミック・アドバイジングの役割とその専門性について米国の大学の事例を交えながらお話いただきました。また後半のワークショップでは、具体的な支援の場面から学習支援に必要な「スキル」と「能力」は何かをグループごとに話し合い、学習を促すための有効な方法について考えました。またグループ内で各大学の事例を共有する時間もあり、「他大学の方々がどのように学生と関わっておられるかがわかり、自分の課題がわかりました」との感想も寄せられました。研修後も受講者から多くの質問が出され活発な時間となりました。



FD ワークショップ 魅力的な授業を設計するインストラクショナルデザインの原則

開催日時：2017年3月8日(水)13:00～17:00

講 師：根本淳子氏<愛媛大学 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 愛媛大学分室准教授>

当センターではインストラクショナルデザインをテーマに、2015年から2年続いてワークショップを実施しています。今回は、「インストラクショナルデザインの道具箱101(北大路書房)」の共著者であり、R.A. リーサー・J.V. デンプシー編(2012)の「インストラクショナルデザインとテクノロジー」の翻訳も担当された愛媛大学の根本淳子氏をお招きし、ワークショップを開催しました。

インストラクショナルデザインとは、授業の開発・実施・評価までの設計を示す幅広い概念です。

各々が考える魅力的な授業の作成に向けて、インストラクショナルデザインの観点から参加者自身の授業を、グループワークを通して分析し、授業改善を試みました。

当日は終始活発な議論が行われ、参加者からは「自分の授業のために考えるポイントをたくさん知ることができた」「自校では授業の改善について教員同士話し合う機会がないため、いい機会であった」などの話があり、次年度に向けてさらに授業設計をブラッシュアップされる様子でした。



## ◆神学研究科◆

神学研究科では、2016年度にFD研修会を2回実施した。第1回は6月1日に開催し、修士論文の指導・評価方法をテーマとして様々な問題について懇談を行った。今回とくに議論が集中したのは、口頭試問以降の論文内容の訂正をどこまで認めるか、どのような手順でいつまでに訂正を行わせるか、という論文の最終評価に関わる部分、そして研究の成果発表をいつどのような仕方で行うべきかという問題である。後者に関しては結論が出なかったため、今後の研究科委員会等で継続的に懇談を行うこととなった。

第2回は11月2日に開催された。ここではとくに講義シラバスの作成についてのオリエンテーションが持たれ、この主題に関する懇談が行われた。講義の目的と目標とがカリキュラム・ポリシーといかに連動するかを確認し、これに則った課題設定と評価基準の在り方について話し合われた。これに合わせて、英語によるシラバス表記の際の注意事項についても確認された。

## ◆文学研究科◆

文学研究科では一昨年度から開始した(1)研究進捗状況報告書提出の義務化による大学院生の研究上の進捗状況の把握とそれに則した指導の徹底、(2)『文学研究科履修心得』の全面改訂による履修・研究指導過程の仕組みの整理と周知徹底、そして(3)博士学位(甲号・乙号)取得にいたる手続きの明確化のための「申し合わせ」の作成と周知徹底により、着実に成果を挙げている。

また、所属大学院生を対象に年2回実施している文学研究科「学生による授業評価」アンケートについて、大学院問題検討委員会で検討を行いその結果を活用している。

さらに、(1)文学研究科独自の大学院生への研究支援制度の見直し、そして(2)大学院生と教員間の学術交流の活性化のための院生・教員合同研究会の開催をめぐって検討を行っている。

## ◆社会学研究科◆

社会学研究科では、主に以下の3つの活動を行った。

- (1)アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、履修モデル、大学院科目のナンバリングについて、大学院FD委員会において検証を行った。
- (2)科目履修者を対象とし、授業に関するアンケートを春学期と秋学期に各一回実施した。当該アンケートは授業、カリキュラム構成、学習環境の現状ならびに今後に向けた課題を明らかにすることを目的としたものである。

アンケート結果を集計した後、院生会の代表者と研究科副委員長・研究科委員長補佐との間で年度内に計二回の会合を持ち、アンケート結果をめぐる話し合いならびに授業等に関する意見や要望について意見交換する機会を設けた。アンケートの結果および院生会との話し合いの内容について、研究科委員会で情報共有を行った。

- (3)院生教育のサポートのための科目「先端社会講義(研究)I/J」の成果および改善を要する点について、担当教員と研究科副委員長・研究科委員長補佐との間で振り返り会を実施し、研究科委員会で情報共有を行った。

## ◆法学研究科◆

法学研究科では、7月29日(金)にFD研究会を開催した。例年、全学の大学院教務課アンケートとともに法学研究科独自のアンケートを実施し、院生の要望等を調査している。今年度も、これらのアンケートの結果を基に、教員と院生がともに参加するFD研究会を開催し、大学院のカリキュラムや学習環境等について率直な意見交換を行った。以下、その議論の一部を紹介する。まず、学部から大学院への橋渡しになる科目を整備して欲しいという要望について、同志社や立命館では院生が学部の科目を自由に履修できる制度があり、これが実質的に橋渡しの機能を担っていることから、本研究科でも今後、学部と大学院との合併科目を増やしたりするなどの対応を検討する必要があると確認された。次に、卒業単位数に算入できる同一名称科目を増やして欲しいという要望について、博士前期課程のカリキュラムに関して、もっぱら特定の科目を学ぶのか、あるいは幅広く学ぶのかは意見が分かれるところでもあるため、引き続き議論を重ねながら本研究科の編成方針を考えていく必要性について認識を共有した。

## ◆経済学研究科◆

2016年度の経済学研究科のFD活動としては、春と秋の定期試験後、2回のFD委員会を開催し、授業アンケートの集計結果についてと授業運営における改善点の有無などについての議論を行ったが、特に大きな問題点はなかった。しかし、大学院の在籍者数の減少は続いており、学部定期試験監督業務への影響は引き続き起こっていることが認められるが、院生数を急激に増やすことは難しいため、なかなか解決の方法は得られていない。

一方で全学レベルでは大学院活性化の部会も発足し、大学院教育の低迷が全学的な課題であることも認識され、改善に向けても動きもでてきた。本研究科においても、学部と大学院5年一貫教育を目的の1つとしたカ



リキュラム改革のWGも発足し、議論が始まった。経済学研究科としての新たな策をここ数年のうちには示していかなくてはならないと考える。

#### ◆商学研究科◆

商学研究科は、大学院FD委員会を中心に、FD活動を行うとともに、専任教員参加によるFD教授研究会(講演会、討論会など)を行っている。

2016年度の大学院FD委員会は、第1回を2016年7月6日(水)に、第2回を10月5日(水)に持ち回りにて開催した。また、研究科委員長から大学院FD委員会に対して、商学研究科のカリキュラムおよびシラバスについて定期的な検証を行い、その結果を10月29日(土)までに報告書として提出するよう諮問があり、その内容について検討を行い、報告書を作成した。

2016年度のFD教授研究会は、商学部と共同で2回開催され、多くの教員が参加し、参加教員との活発な質疑応答があった。特に、第1回FD教授研究会は全員参加となった(日時:2016年6月1日(水)15:20、講師:石原一則氏(本学研究推進社会連携機構・事務部長)、白坂健氏(本学研究推進社会連携機構・課長補佐)、テーマ:「公的研究費の管理及び研究活動・不正行為を巡る状況と本学の対応」)。続いて、第2回FD教授研究会を開催した(日時:2016年7月6日(水)15:20、講師:地道正行(商学部教授)、テーマ:「内部質保証とシラバス実質化」)。この他にも、教授研究会として、商学部と共同で教員による研究報告会を行っており、教員の研究活動の活性化を図っている。

#### ◆理工学研究科◆

理工学研究科は大学院進学者が多く、大学院生を指導するためのFD組織は重要である。2012年度より理工学研究科のFD推進組織として、大学院理工学研究科FD委員会を設置し、順調に機能している。また、2012年度から開講した英語のみで講義・研究を行う国際修士プログラムも順調に進んでおり、現在14名の学生が受講している。プログラムの問題点をチェックするため、新入留学生全員と面接による聴き取りを行い、既習内容と研究テーマのマッチングの確認、生活面での問題点等について調査した。ここで得られた情報や要望は国際化推進委員会と共有され、大学院教育や生活面の改善に役立っている。また、2016年7月20日に、DVD視聴の形で『教育の質保証とシラバスの実質化』に関するFD研修を実施した。当日参加できなかった教員にはDVD貸し出し、視聴後にレポートを提出させることで、全教員のFD研修受講を徹底した。さらに理工学部FD委員会との共同開催で、FD講演会とFD研修会を開催した。FD講演会は、FD活動の経験者や有識者を招いて講演会を開催するもので、毎年開催している。今年度は、11月16日に、立命館大学の清水寧教授

をお迎えし、「学生運動の定点観測の試み—立命館大学物理学科における学修面談について—」というタイトルで講演いただいた。この講演から、学生の振り返りの場、問題を聞くことで学生に安心感を与える場として面談を捉える考え方を学ぶことができた。また、学生の成績は、個人の能力だけでなく、学生の属すクラスなどの集団からも影響を受けることから、入学初期から集団全体の質を向上させる取り組みが必要であることがわかった。FD研修会として、学生からの授業アンケートで高い評価を受けている2つの講義の見学を行った。11月2日には、石浦菜岐佐教授の「コンピュータアーキテクチャ」、11月14日には、高橋功教授の「量子力学I」の見学が行われた。それぞれの参加者からアンケートをとったところ、自身の講義の改善に有用な情報が得られたとのコメントが多く寄せられ、講義改善の啓発活動として有効な企画であったと考えられる。

#### ◆総合政策研究科◆

総合政策研究科では、FD/入試制度・カリキュラム検討委員会を計3回(持ち回り1回)開催し、FD活動などに関する議論を行った。2016年度における主な活動は以下の通りである。

- (1)FD研究会を計3回開催した(学部と共催)。
- (2)専門分野の異なる各教員の研究内容や授業方法の紹介などを目的とした研究発表会を計6回実施し、新任教員5名、学院留学・特別研究期間で研究活動を行った教員1名が研究報告を行った(学部と共催)。
- (3)「授業に関するアンケート」の記入用紙および集計方法・フィードバックに関する再検討を行い、秋学期から新方式で実施した。
- (4)研究者養成に重点を置いた新カリキュラムを策定した(2017年度から導入予定)。この中には、国連・外交コース開設を見据えた「英語コース」の内容変更や、大学院共通科目・他研究科科目の履修に関する変更、他研究科との合併科目に関する検討、教職課程(専修)に関する見直しなどを含んでいる。
- (5)研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの再検討を行った。

#### ◆言語コミュニケーション文化研究科◆

言語コミュニケーション文化研究科においては、FD活動の一環として、研究科執行部と、言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の全4領域の大学院生代表によるFD研修会を年に1回開催している。本研究科のカリキュラム構成、授業内容、教授法、設備、施設等に関して学生の意見を聴取し、教員との間で議論を交わすことによって、本研究科における教育・研究環境の全般的改善に結びつけることがその目的である。2016年度のFD研修会は12月7日に実施され、執行部教員4名、学生4名の出席を得て、活発な議論が交わ

された。学生からは、外国語による論文執筆に際してサポート体制を整えてほしいとの要望をはじめとして、カリキュラム構成、授業アンケート、学生間のコミュニケーションなど、様々な点についての指摘やコメントが出された。外国語による論文作成支援については全学的な取り組みが必要であると考えられるが、研究科単位で可能な対応についても検討していくこととなった。その他の内容についても、研究科教員全体と共有を行った上で、学生の教育研究環境の向上のために、継続的に検討・対応を進めていくこととした。

### ◆人間福祉研究科◆

人間福祉研究科では、大学院諸問題検討委員会と大学院FD委員会を同時開催で計4回開催し、FD活動の充実に向けた検討を行った。2016年度における主な活動は以下のとおりである。

- (1)人間福祉研究科開講科目ナンバリングの付番  
全学のナンバリング体型を基に、人間福祉研究科開講科目にナンバーを付番した。
- (2)カリキュラム改編についての考え方の整理  
今後の授業開講担当者の調整について、考え方を整理した。
- (3)授業評価の実施  
春・秋学期ともに実施。いずれも各授業についてよい評価を得た。
- (4)前期課程中間報告会、後期課程成果報告会の開催  
前期課程、後期課程それぞれの学生が研究の進捗状況を発表することにより、知見を教員や院生等と共有するとともに、質疑を通して今後の研究に資する報告会を開催した。
- (5)人間福祉研究科のガバナンスの構築  
人間福祉研究科のガバナンスを構築し、マネジメント体制を確立した。
- (6)研究業績の調査  
人間福祉研究科在籍の大学院生全員を対象に調査を実施し、2016年度の研究業績を纏めた。

また、人間福祉研究科では2017年1月28日(火)にFD研修会を実施し、2016年度自己点検評価に対する評価専門委員会・第三者評価結果を受けて意見交換を行った。

### ◆教育学研究科◆

今年度は3回のFD研究会を実施した。7月13日は内部保証に関する研修会を教育学部と合同で実施した。8月3日は「成熟社会に相応しい教育課程と学習指導要領改訂」というテーマで、合田哲雄氏(文部科学省初等中等教育局教育課程課長)にご講演いただいた。2018年(先行実施)にスタートする学習指導要領改訂の背景と特徴について、具体的には新しい時代に求め

られる資質・能力を明確に示し、子どもたちが学校教育で何を学ぶのか、どのように学ぶのかについて、豊富な資料に基づきながらの解説を賜った。教員養成課程を有する教育学部、教育学研究科にとって学習指導要領改訂は教育課程や授業内容に影響するため、本研究会は貴重な学びの機会となった。2月15日には「共生」というテーマで実施した。次年度から研究科再編により教育学専攻内に乳幼児教育研究領域と共生教育研究領域が設けられる。共生教育については既に教育理念にも掲げられているが、「共生とは何か」「共生教育とは何か」を常に開かれた問いとし、様々な専門分野の教員が相互に学び合い、議論を深める機会として、FD研究会を計画した。今回はコンセプトマップの作成に向けて3名の教員から話題提供があり、その後、参加者全員によるワークショップを実施した。次年度以降も同テーマに関する協働研究を大学院生も交えて継続し、「学びと探求の共同体」の形成をめざしている。

### ◆国際学研究科◆

国際学研究科のFD活動としては執行部教員が学部生から要望を聞く学生インタビューを院生にも行っている。院生は全員に参加してもらったので、言いにくい点もあったかもしれないが、特に不満は聞かれず、少人数での授業に満足していたようである。

5年間で学士と修士を取得することは、現行でも早期卒業制度を利用すれば可能だが、他研究科への進学も含めて、学部生がより一層利用しやすくするための制度変更を検討している。その中で昨年度から引き続き、学部と大学院の連携について議論している。教員負担軽減のため、同じ授業を聴かせて別の課題を課し、異なる評価基準で成績評価する制度の導入を目指していくことになったが、その具体的な教育方法については今後の課題である。

修士号学位論文の中間報告会には昨年同様、指導教員以外も多く参加し活発な助言が行われた。1学年定員6人で実際には在籍者2人程度なので不開講科目が多く研究科全体でのFD活動は行いにくいだが、その分、院生の論文指導は指導教員任せでなく、研究科全体で行っていくという姿勢は研究科の伝統としていきたい。

### ◆司法研究科◆

司法研究科では、研究科長を含む4名の教員からなる「自己評価・FD委員会」を、原則として毎月1回開催している。今年度は、次のような活動を行った。

- (1)授業評価：学生による授業評価アンケートを春・秋の両学期授業終了時に実施した。あわせて、すべての授業担当者が自ら実施する自己評価アンケートも実施している。評価結果及びそれを分析した報告書は、教学Webサービスにおいて、また紙冊子によるものは事務室において教職員・学生を対象に公開を

予定している。なお、今回は両学期の報告書をまとめて作成（掲載）する予定である。

- (2) 授業参観：各学期期間中に授業参観週間を設けて、教員相互の参観を実施している。また、特定の授業（今年度は「基礎演習」科目群）を指定して参観を行い、授業終了後に担当教員退出後、参観した教員と受講していた学生との間で意見交換を行っている。さらにその後、参観した教員と当該授業担当教員との間でも意見交換を行い、授業方法等の改善にむけて率直な議論を重ねている。
- (3) 中間アンケートの実施：各学期の授業開始後、原則として第4週目あたりで、授業に関するアンケートを学生対象に行っている。これは、授業担当者自身が行うもので、これをもとに即座に、その後の授業改善に役立たせようとするねらいがある。
- (4) 学生との個別面談の実施：春学期成績発表後、担当教員と学生との個別面談を実施している。ここで学修状況の確認や学修上および生活上の悩みについての相談を受けている。
- (5) FD研修会の実施：11月30日、法科大学院認証機関である日弁連法務研究財団から2名の委員（弁護士）を招き、評価基準の改正に関する説明会を開催した。専任教員は15名が参加した。なお、本学ロースクールは、2018年度に当該財団の認証評価を受審する予定である。
- (6) FDニュースの発行：自己評価・FD委員会において、FD活動に関して「FDニュース」を作成し、教員及び学生に配布する予定である。

### ◆経営戦略研究科◆

経営戦略研究科では、2016年5月11日に経営戦略研究科大会議室で第1回のFD委員会を開催し、当該年度

のFD活動計画について話し合った。続いて、2016年10月19日に2016年第2回のFD委員会を経営戦略研究科大会議室で開催し、それまでのFD活動の振り返りと反省、追加のFD研修会の開催について議論した。その時点で既に2つの研修会を終えていたものの、やや義務的な内容のものでもあったので、追加で独自のFD研修会を開催すべきであるとの意見に達した。

3回のFD研修会の内容については以下のとおりである。第1回の研修会は、2016年6月29日（水）16:00～17:00に経営戦略研究科大会議室で開催した。コンプライアンス、特に研究不正防止について研修を行った。具体的には、研究推進社会連携機構事務部 石原一則 部長、白坂建 課長補佐をお招きし、公的研究費の管理及び研究活動・不正行為を巡る状況と本学の対応（主に剽窃について）およびTurnitinについて講習をいただいた後で、質疑応答を行った。出席者は、19名であった。

第2回のFD研修会は、2016年8月31日（水）13:30～14:00に経営戦略研究科大会議室で開催した。内部質保証研修会として、教育学部 江原昭博 准教授の講演を収録した23分間のDVDを視聴した。その具体的な内容は、認証評価制度および改革総合支援事業を通じた政策動向についてであった。出席者は、16名で、当日参加できなかった教員を対象2016年9月7日（水）に再度経営戦略研究科大会議室で同じ内容の研修会を開催した。

第3回のFD研修会は、2016年11月30日（水）の専攻会議終了後、「専門職大学院の動向」というテーマで、ビジネススクールに関しては、山本教授、佐竹教授、アカウンティングスクールに関しては杉本教授が講師となり、専門職大学院の動向や他校の動向などについて話題提供があり、そのあと質疑応答をした。

## 2016年度FD活動報告について（学部・センター等）

### ◆神学部◆

神学部では、2017年度より従来4年生のみが履修する特殊研究演習に代わって3・4年生が履修する研究演習を導入するにあたり、特殊研究演習・研究演習の運営、短・中期留学希望者の指導についての研修の時を持った。また卒業論文執筆の指導について、将来的に「優秀卒業論文賞」を設置するための手順、ならびに卒業論文発表会について話し合った。

11月2日には、第2回FD研修会として、「初年次教育と少人数教育」について話し合う時を持った。特に1年の春学期にクォーター制で行われている「キリスト教学」と「旧約聖書入門」「新約聖書入門」、さらに本年度から開講している「文献講読」について報告ならびに振り返りを行った。また、従来から取り組んできたシラバスの充実について、特に教育の質向上に関

するPDCAの確立という視点から話し合った。

2017年3月7日には、非常勤講師対象に高等教育推進センターのスタッフを招きLUNAの運用、ならびにポートフォリオについてのFD研修会を開催し、具体的な事例を紹介していただきながら、各授業における運用について懇談した。

### ◆文学部◆

文学部では、2016年度のFD活動として、まず2016年11月30日に「人文演習I担当者会」を開催した。文学部では、初年次春学期「人文演習I」については文学部11専修の学生をシャッフルしてメンバーを構成する一方、秋学期「人文演習II」については各専修に分かれて専修の教員が指導する形をとっている。従来の「担当者会」は「I」と「II」を繋ぐ役割を果たしてきた

が、今回は新しい試みとして、「I」の今年度担当者と来年度担当予定者とが集まり、今年度担当者が事前に提出したレポートをもとに意見交換を行い、今後の「人文演習I」のあり方について懇談した。

また、2017年2月14日には、文学部FD研修会として、総合支援センターによる講演会「不当な差別的取り扱いと合理的配慮の提供について」を開き、障がい者の権利に関する国内外の法制度の動向や、学内で取るべき対応について学んだ。講演後、カリキュラム上の合理的配慮（履修単位の読替）の可能性、支援を行う教員に対する援助体制の充実、合理的配慮の諸事例のデータベースの整備等について質問が出され、今後の合理的配慮の方向性に関し活発な意見交換がなされた。

#### ◆社会学部◆

社会学部では、FD部会が中心となり、FD活動への取り組みをおこなっている。今年度は、2回FD研修会を開催し、1回学部懇談会を行い、学部の抱えている課題について教員間で情報共有すると共に、課題解決に向けた議論をおこなった。

7月13日に第1回目のFD研修会をおこなった。テーマは「IR調査結果から見る社会学部生の特性について」とし、IR調査の社会学部分のデータを再分析し、社会学部生の特徴を明らかにし、知識の共有を図った。

12月14日には、「新課程における初年次教育について」と題して、2回目のFD研修会を開催した。社会学部では、今年度より新しいカリキュラムが始まっている。そこで研修会では、特に新カリキュラムにて新設または大きく内容を変更した科目を取り上げ、どのような授業をおこなっているのか、また現時点で考えられる課題は何であるのかについて、報告、議論をし、教員間での情報共有をおこなった。

3月7日には、「初年次教育の現状と課題」というテーマで学部懇談会を開催した。12月14日のFD研修会の内容を踏まえ、特に1年生必修科目である基礎演習と社会学入門についてさらにつっこんだ議論をおこなった。また1年生に対しておこなった意識調査結果の報告、初年次教育におけるキリスト教教育についても議論することで、来年度に向けた初年次教育のあり方について議論をおこなった。

#### ◆法学部◆

法学部は、2012年度に大規模なカリキュラム改革を実施し、その完成年度を経て、4月の拡大カリキュラム委員会において、この新カリキュラムを30頁を超える検証用資料を作成した上で検証した。その後、学部長室会議で報告を行った後、5月の教授会でこの資料をもとに懇談した。教授会では多くの教員から、司法特修コースの今後の見通し、2年生向けのコース導入演習の在り方などの意見を頂いた。

また、12月の教授会の冒頭で「FD研究会」を開催し、

高等教育推進センターの時任講師をお迎えして、「アクティブラーニングとルーブリックを活用した評価」について講演して頂いた。講演では、アクティブラーニングの定義から、その活用事例、さらにはルーブリック利用のメリットやルーブリック事例などを図表を用いて分かりやすく説明して頂いた。講演の後で、質疑応答があり、法学部の専門の講義及び演習におけるアクティブラーニングの活用の具体的方法などについて意見が交わされた。研究会では、例えば、レポート用ルーブリックなど法学部の専門科目でも十分に利用できると思われる方法が多く資料に基づいて説明された。

#### ◆経済学部◆

経済学部が2016年度に実施したFD活動は以下の通りである。

- (1)「基礎演習」については2017年3月に担当者会議を行い、2016年度の基礎演習運営に関する現状と問題点に関する共有等を図った。
- (2)専門基礎科目「経済と経済学の基礎」に関して、補習授業の担当者会議を2016年4月と9月に行い、科目担当教員とTAの顔合わせおよび進め方、LAの活用方法等に関する確認・情報共有を図った。
- (3)専門基礎科目「経済と経済学の基礎」「現代経済入門」「経済の歴史と思想」について、2016年9月、2017年3月の2回にわたり担当者会を行い、講義内容や採点・評価、授業実施上の課題等に関する情報交換を行った。
- (4)ライティング教育のスキルアップを目的として、2017年1月に桜美林大学の井下千以子教授を招き「思考を深めるライティング教育の組織的取組と指導法—Writing Across the Curriculumの事例をもとに—」というテーマで講演・研修会を行った。
- (5)2016年度秋から、学部の基礎教育・経済学教育の全体的な体系見直しに向けたワーキンググループを立ち上げ、議論を開始した。実現可能性を含め現在は構想段階であるが、今後経済学部の教育に必要な要素について議論を深めていく予定である。

#### ◆商学部◆

2016年度に商学部で行ったFDに関する活動としては、以下の2回の研究会をひらいた。

まず、2016年6月1日(水)に商学部本館第1会議室において本学研究推進社会連携機構の事務部長である石原一則氏と課長補佐の白坂健氏を迎えて「公的研究費の管理および研究活動・不正行為を巡る状況と本学の対応」という演題で講演をいただいた。公的研究費の私的利用など、本来あってはならない問題が日々メディアで取り上げられることを鑑みても、この研究会は非常に有意義なものであった。なお、参加者は30名で欠席者の19名については当日配布された資料を再配布し徹底した。

次に、2016年7月13日(水)に商学部本館第1会議室において副学部長(教務担当)から「内部質保証とシラバス実質化」という演題で説明があった。開催の背景には、今後、シラバスの実質化とその評価が文部科学省からの要請により重要な事項として取り組むべきこととなることが予想され、その前段階として内部質保証の意義を理解した上でそれらの試みを行う必要があることが指摘された。なお、参加者は41名であり、欠席者8名については当日の資料を配付し、研修用DVDを視聴してもらった。

#### ◆理工学部◆

理工学部FD委員会は毎年、FDに関係する活動の経験者や識者を講師に招いて講演会を開催している。2016年度は、アカデミック・アドバイザー制度における教員面談指導能力の向上を図るため、立命館大学で学修相談のマネジメントをされている清水寧教授に依頼し、「学生動態の定点観測の試み—立命館大学物理科学科における学修面談について—」という演題で講演いただいた。面談を学生の振り返りの場や、学生生活の問題を聞くことで安心感を与える場とする考え方などを学ぶことができた。また、学生は入学後の英語クラスなど集団の影響を受けるため、入学初期に上位層を引き上げる事で集団全体の質を上げるような取り組みも重要である事が分かった。

また、2016年度から学部独自のFD活動として、『授業に関する調査』で学生満足度が高かった講義を教員が聴講し、内容について懇談を行った。配布資料の周到な準備や豊富な知識に基づく様々な角度の講義法などに学生が満足を感じている事が分かり、今後の学部講義全体の質向上に向けて参考になった。さらに、FD研修会として本学教育学部の江原昭博准教授による「内部質保証の意義」に関する講義DVDを3/4以上の教員が聴講した。

#### ◆総合政策学部◆

総合政策学部は、従来からFD・カリキュラム委員会のもとで、FD活動とカリキュラムの検討を一体的に推進してきた。2016年度においても、複数回のFD・カリキュラム委員会に加え、短期海外プログラムの課題検討や、教員等による研究報告会等を実施した。なおカリキュラムの見直しについては、並行して進めている学部将来構想委員会における議論を優先することとした。

春学期においては例年通り、各教員の専門分野や研究内容、あるいはわかりやすい授業方法の紹介を目的として、新任教員及び海外留学から帰国した専任教員等の研究発表会を実施し、情報交換を行った。秋学期には3回の委員会を開催した。まず2016年9月には、学部DP、CP、APについての現状確認と修正検討を行った。さらに内部質保証について、教育学部江原准教授が作成された資料をもとに学習した。また高大連携科

目のひとつとして高校生を交えて夏休み集中講義形式で試行した「総合政策トピックス」についての報告と検証を行った。2016年11月の委員会では、海外短期プログラムについて、参加学生のアンケート結果を見ながらその効果と実施のための課題等について議論した。2017年1月の委員会では、高畑教授より2016年度総政入学生の入試タイプ別の初年度成績や志望学科等の調査、過年度入学生の成績追跡調査および建築士プログラム受講生の特徴などについてのデータを基にした報告がなされ、情報を共有した。

なお、理工学部とのシナジー教育タスクフォースの成果として「激論講義 in KSC」を実施し両学部学生から好評を得た。その成果を踏まえて企画の恒常化や講義科目への展開について検討中である。

#### ◆人間福祉学部◆

2016年度は、第1学年次必修科目である基礎演習において、昨年度の学部FD委員会で初年次教育改善の取り組みとして作成した「スタディガイド」を全クラスで配布・活用した。また、7月6日(水)17:00~18:30には、コロンビアのアンティオキア大学社会科学・人文科学部長であるHernando Munoz Sanchez先生を講師に招き、「コロンビアのLGBTについて」と題して2016年度第1回FD研修会を開催し、コロンビアと日本の大学におけるLGBT学生の置かれている立場について議論を行った。

2017年1月28日(土)17:00~17:55には、2016年度第2回FD研修会を開催し、2016年度自己点検評価【人間福祉学部・人間福祉研究科】に対する評価専門委員会・第三者評価結果を受けて、学部・研究科内での取り組み事項の優先順位付けや担当者、また学部・研究科内の各委員会の役割やスケジュールなどについて、構成メンバーで意見交換を行った。

さらに、2017年度に向けて卒業研究の提出期間を見直すとともに、「卒業研究ガイド」の作成についても担当者を決定し、作業を開始した。

#### ◆教育学部◆

2016年度、教育学部はFD活動として、以下1回のFD研究会を実施した。

2017年2月27日、京都大学高等教育研究開発推進センター教授、溝上慎一先生による講演「大学(教育学部)におけるアクティブラーニング」を受講した。具体的内容としては、①アクティブラーニング型授業づくりの基礎、②アクティブラーニングの背景、③アクティブラーニングとは(大学~初等中等教育)、④初等中等教育で起こっているアクティブラーニング型授業の問題点、等について学んだ。その際、講義だけでなく、ペアワーク等も含んだ受講者参加型も含む形式で学べた。特に④初等中等教育で起こっているアクティブラーニング型授業の問題点については、具体的な事

例について説明があり、非常に実践的な内容であった。積極的導入が望まれるアクティブラーニング型授業について教授会メンバーで共有する機会となった。参加者は43名であった。

#### ◆国際学部◆

国際学部のFD活動は、①FD研修会（年4回実施・内2回は国際学研究科との合同（以下、院合同））、②教員相互授業参観（院合同）、③学生インタビュー調査（院合同）の三つで構成されている。

2016年度FD研修会は、第一回「学部と大学院の連携について」（5月25日実施・院合同）、第二回「ライフデザインについて：3年生・大学院生の就職活動に向けて」（7月6日実施・院合同）、第三回「内部質保証の意義とシラバスの実質化」（7月13日実施・臨時）、第四回「3つのポリシーが私たちの教育をどう変えるのか」（1月25日実施）をテーマとした。

第一回FD研修会では、学部生の専門性と大学院進学（他研究科・他大学を含む）、早期卒業制度と活用状況、他学部における学部と大学院との連携の事例紹介などについて、活発な議論が行われた。第二回はキャリアセンター職員による2015年度卒業生の進路状況等の報告を受けて質疑応答がなされ、緊密な情報共有の重要性を確認した。第三回は江原昭博教育学部准教授によるDVD講演の視聴、第四回は平林孝裕教授（高等教育推進センター長）による講演に続き、質疑・討論を行った。

#### ◆言語教育研究センター◆

（英語）レベル別で開講する各クラスの使用テキストや2017年度開講予定のリメディアルクラスの授業運営について議論を行った。（フランス語）LAの活用により、学習者のフランス語学習（発話）の動機づけを高め、効果的な学習を促した。（ドイツ語）ドイツ語圏からの留学生との対面タンデム学習、日独学生交流会、ドイツ語母語話者LAの活用により、学習の動機づけを促進した。また、ポートフォリオ作成、使用についても本格的導入のための準備を行った。（中国語）中国文化週間を実施し、言語教育を通じて異文化交流を促進した。（朝鮮語・スペイン語）学部選択必修科目として修得済みの学生の継続的な学習を促すため、各語種の履修基準を変更した。センター全体としては、学習の動機づけ、学習者ポートフォリオ導入、協働学習、カリキュラム・シラバス改善、教材開発に取り組み、一定の成果を得た。

#### ◆教職教育研究センター◆

本センターでは、文部科学省によって2018年度に実施される教職課程の再課程認定に備え、教職課程の質的水準の向上を図るために、計4回のFD研修会を実施した。第1回（7月5日・教職員全員）では、「内部質

保証の意義とシラバスの実質化」をテーマとした講演内容をもとに認証評価制度の政策動向について共通理解を図った。第2回（7月12日・職員を含む）は、「本年度の教育実習の改善と充実」をテーマとし、事前・訪問指導の在り方や就職動向の変化による課題とその対応について検討を行った。第3回（10月29日・非常勤講師を含む）では、複数の授業形態によって多様な授業内容を展開する「教職実践演習」（2013年度から導入の必修科目・4年次秋学期履修）について意見を交換した。実施上の課題や学生の自己評価に対する適切なフィードバックの方法について協議し、学期後半と次年度の授業に備えた。第4回は、教職課程研究懇話会（12月16日）の中で行った。学習指導要領改訂を視野に社会科系の教科教育の動向を踏まえ、社会科・公民科教育法の実践方法・内容に関する発表が授業担当者によって行われた後、出席者全員（非常勤講師を含む）で教職課程全般についての情報交換を行った。

#### ◆スポーツ科学・健康科学教育プログラム室◆

2016年度スポーツ科学・健康科学教育プログラム室では以下のFD活動を行なった。

##### (1) 関西5私大体育研修会への参加

2016年12月に関西大学（梅田キャンパス）で開催された関西5私大体育研修会に、本プログラム室の室長、副室長が参加した。本研修会は関西学院大学、関西大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学の関西5私大で構成された研修会である。今年度は、「保健体育科目の現状報告」「実技授業の安全管理（熱中症対策、スキー実習等のS T比など）」というテーマにもとづき、室長が本学の現状報告を行ない、他大学との情報共有を行なった。

##### (2) スノーボード研究会への参加

2017年1月に実施されたスノーボード研究会にプログラム室構成員2名が参加した。スノーボード初心者、初級者、中級者、上級者各々に対する指導上必要な技術に関する実技研修を受けた。また、昨今問題になっている、ゲレンデ内外での事故に対する防止策、対応法に関しても専門家による講義、実技指導がおこなわれ、同時に参加者全員による情報交換がおこなわれた。

#### ◆人権教育研究室◆

人権教育研究室は、人権教育における全学的なFDの推進のために、室長室会が推進主体となって人権関連の諸活動を実施している。具体的には、研修プログラムの提供、公開の研究会・シンポジウムの開催、啓発キャンペーンの実施など、教職員が自主的、多角的に参画できる人権理解の場の創出に努めるとともに、人権教育科目の授業に各学部の教員が運営委員として出席し、科目代表者とともに授業運営に当たることによって、本学の人権教育の理解を深めている。今年度の主な取り組みは以下のとおりである。

第1に、4月に新任教職員及び在職教職員の希望者を対象に人権研修プログラムを実施し、本学の人権についての考え方についての研修と、大阪人権博物館の見学を行った。第2に、春季・秋季各2回の人権問題講演会で、大学におけるハラスメント問題、LGBTへの対応、ヒロシマと平和、難民問題の各テーマについて理解を深めた。特に、LGBT啓発においては、第4回関学レインボーウィーク「みんなが気づけば関学も変わる！」で、多岐にわたる企画により学生とともに問題に出会い、学ぶ機会が提供された。第3に、人権教育科目の運営を、各学部からの教員が運営委員となり代表者とともに担った。また、3月に開催した人権教育科目担当者連絡会では、本学の人権保障実践についての報告の後、人権教育科目担当者間で意見交換を行った。第4に、指定研究において、人権教育科目の設置や内容について、時代と学生のニーズに対応した人権教育を捉えなおす研究が行われた。また、教職員による主体的な人権の取組みの奨励を意図して設けている公募研究にも、多数の意欲的な応募があった。

以上の2016年度の本研究室の活動をさらに精査し、今後の本学における人権教育と多様性尊重の人権文化を促すFDの取組みへとつなげていきたい。

#### ◆国際教育・協力センター◆

一昨年度より、国際教育・協力センターでは、交換留学を主眼に据えて開講する日本・東アジア研究プログラムについての検討ワーキンググループを設置して議論を続けてきた。そのワーキンググループでは、通常の授業調査とは別に、協定校から来学している交換留学生を対象にアンケートを行い、日本・東アジア研究プログラムとして提供する科目群が彼らの留学目的に沿った学びを体系的に提供できる科目構成となっているかについて尋ねた。その結果、特定分野・領域に開講科目が集中していたり、交換留学生の関心が高い分野・領域における開講科目が欠落していたりしているなどの課題が浮き彫りになったため、昨年度、「現代日本プログラム」という新しい名称のもと、日本・東アジア研究プログラムの全体的な科目構成を抜本的に見直し、各分野における科目の整備にも着手した。今年度は現代日本プログラム開講の初年度であったが、以前よりも交換留学生の学問的な関心に応えることができたという印象を抱いている。今後も交換留学生数の急速な増加が予想される上に、彼らの日本についての興味も多様化してきており、様々なチャレンジが待ち受けているだろうが、できるだけ満足のいく留學生活を送ってもらえるよう今後も彼らのニーズに耳を傾けながらプログラムの内容を充実させていく所存である。

#### ◆日本語教育センター◆

日本語教育センターは、正規外国人留学生、交換留学生、短期外国人留学生、正規日本人学生を対象とするプ

ログラムを開講している。全学による授業評価と併せて、本センター独自の質問票による授業アンケートを行っているが、本年度はアンケートの質問項目を見直し、マークシート化したことで、分析が学期末講師会議に間に合うようになった。本センターの留学生を対象としたプログラムはすべてチームティーチングによって指導しているため、教員間の連絡や情報共有が欠かせない。従って本センターに所属する教員は常にクラスの状況や学生一人一人の勉学上の問題点、お互いの教授方法や進度などの情報を共有するために、学期前と後に開催する講師会（非常勤講師を含む授業担当者全員）や毎月の講師室会（専任、特別契約、常勤講師のみでの連絡会）を開催している。また、3月に開催した関学日本語教育研究会では、「読解教育」をテーマに学部から講師を招き講演してもらおうと共に、外部にも告知して多くの日本語教育関係者と意見交換を行い、さまざまな知見を得るとともに、本学の日本語教育センターの知名度向上を図った。

#### ◆キャリア教育プログラム室◆

キャリア教育プログラム室では、次の体系のもとで、正課科目を配している。(1) インターンシップ関連科目、(2) キャリアゼミについて、FD活動に取り組んだ。そもそも、本プログラム室の教育カリキュラムは、(a) 講義、(b) 小集団ゼミ、そして(c) キャリアゼミという3段階重ねになっている。

- (1) インターンシップ関連科目は、(a) と (b) からなる。(a) は大教室での講義であり、「社会の中での自分」というメインタイトルをつけている。授業期間に開講しており、大学卒業後に彼らが選択するであろう産業界や官界にあるいはNPOに進む将来のキャリアを、現在の日本の経済や産業の現状と課題を教えることで、グローバルに思索し、真剣に歩ませたいという意図を持っている。(b) も授業期間に開講しており、クラス40名程度でディベートやディスカッションをさせることで自分自身の発見と自覚を目指すものである。ただし、本年度より(a)と(b)を春・秋学期に開講した。
- (2) (a) については、NKS能力開発センター・紀伊國屋書店等に講師派遣とテキスト開発を委託している。学期終了後に、担当講師およびNKS能力開発センター、紀伊國屋書店、キャリア教育プログラム室が一堂に会して、反省と次年度への改革を討議している。ここで共有した改革点はテキストの増補改訂や次年度の授業に反映させている。一昨年からは、民間企業だけでなく、公務員に関心のある学生を配慮して、公務員の任務についても概説している。
- (3) キャリアゼミは夏休みや春休みの期間を利用して開講する集中科目である。ビジネスプランを書かせるキャリアゼミA、協力企業から与えられた経営課題に取り組むキャリアゼミB、最後にキャリアゼミCでは、学生チームが自由に飛び込みで選択した企業

の経営戦略と経営ビジョンを語る。東京での企業回りもあり、東京・代々木オリンピックセンターでの合宿形式が多い。他に、霞が関セミナーでは、現職の課長クラスの講演に加えて、16年度は霞ヶ関本庁を訪問した。一昨年、これらの参加者の中から中央官庁総合職が二人決定したことは誇りであり、当センターの努力が実ったとも言える。また、海外インターンシップ（2014年夏からスタート、ロサンゼルス方面）がある。担当教員を中心に、学生の評価や理解度、満足度から問題点を確定し次年度の改良点として、授業の運営に生かしている。

(4)ゼミ形式の授業や海外インターンシップでは、学生の個性を生かす努力を展開しており、学生の評価は極めて高い。

#### ◆共通教育センター◆

当センターは2010年4月の設置以来、FDに関する主たる取り組みとして、全学科目体系の整備、初年次教育科目「スタディスキルセミナー」や「グローバルキャリアデザイン入門」の提供、ラーニング・アシスタント（L.A.）制度の運用を推進してきました。

2016年度は上記取り組みの推進と改善に加え、ハンズオン・ラーニング科目の新規開発を行いました。2014年度に採択された「スーパーグローバル大学創成支援」事業の中核の「ダブルチャレンジ制度」の1つである「ハンズオン・ラーニング・プログラム」として『社会探究実習Ⅰ（広島・江田島平和フィールドワーク）』『社会探究実習Ⅰ（瀬戸内海・豊島環境フィールドワーク）』『PBL特別演習001（福島から原発を考える）』を2016年度より開講しました。いずれも現地でのフィールドワークを行い、自分の目で見て、自分の耳で聞くことを通じて受講生自らが課題を探究し、主体的に考え、行動する能力を養うことに主眼をおく科目です。これらの科目の実施に際しては、現地カウンターパートとの行程調整、担当教員との授業計画、評価方法の在り方に関する検討を行いました。

また、2017年度から新規開講する『社会探究実践演習（篠山・今田コミュニティガバナンスFW）及び（朝来・竹田城下町活性化PJ）』の開発に向けて、現地の事前踏査や現地カウンターパートとの連絡・調整を行いました。さらに、『PBL特別演習（富士ゼロックス兵庫（株）PJ）』や『ハンズオン・インターンシップ実習』の連携先との連絡・調整、授業計画の検討を行いました。今後これらを提供していく上で、一つのカギとなるの

は各活動に対する評価をどのように行うか、という点です。これに関しては、プレゼンテーションやグループワークに対する評価として、ルーブリック評価を積極的に導入していくなどといった教育改善の取り組みを推進していきたいと考えています。

なお、当センターでは、科目提供とともに学習環境の改善に取り組んでいます。学生の学習意欲の喚起と授業の活性化を通じて、今後も教育の質の向上を目指していきたいと考えています。共同学習空間「ラーニングコモンズ」の円滑な運営と改善を図るとともに、全学的な取り組みの推進が求められている、シラバスの高度化等のFD推進課題に関する調査と検討を進めて、教育の質向上に寄与していきたいと考えています。

#### ◆大学宗教主事会◆

一昨年度ならびに昨年度は、初等部・中学部・高等部の各宗教主事より各学校で実施されているキリスト教主義活動と教育の報告と意見交換を行い、一貫教育としての「キリスト教主義教育」を考える機会を得た。今年度は従来の学部の教育内容に関する報告を下記の2学部より行っていただいた。また、9月に実施された「拡大学長室会」集中審議を受けて、大学宗教主事会でも集中審議を実施（9/6）したほか、内部質保障を目指して開催された「評価推進委員会」（1/13、2/17）での議論をもとに、「キリスト教学」のあり方を考えるためのFD研修会を下記のように実施し、今後のキリスト教主義教育のあり方をめぐる意見交換を行うことができた。なお現在、大学宗教主事会のもとに「キリスト教学のあり方」を再考し2018年度の各学部シラバスに反映することを目的としたワーキング・グループを組織し、集中的に論議を重ねていることを、今年度の報告者ならびに講師の方々への感謝と共に、合わせて今回の報告とさせていただきます。

- \*各学部の「キリスト教学」「チャペル・アワー」の内容ならびにその特徴の報告
  - ・開催日時：2016年6月3日（金）  
報告・発題者：嶺重 淑 人間福祉学部宗教主事
  - ・開催日時：2016年12月4日（金）  
報告・発題者：打樋啓史 社会学部宗教主事
- \*3つのポリシーをもとにした「キリスト教学」の内容再考のための研修
  - ・開催日時：2017年2月17日（金）  
講師：平林孝裕 高等教育推進センター長

### 高等教育推進センターニュースレター

2017年3月31日

発行：関西学院大学教務機構高等教育推進センター

TEL：0798-54-7420 FAX：0798-54-7421

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

<http://www.kwansei.ac.jp/cerphe/index.html>

ご意見、ご感想、情報等をお寄せ下さい。寄稿も歓迎致します。✉ [HighEdu@kwansei.ac.jp](mailto:HighEdu@kwansei.ac.jp)